

## 物語をくらべて紹介しよう！

## 実践事例における提案

本単元で身に付けたい力は、「文章中の語や表現に着目しながら読む力」である。そこで、「ゆうすげ村の小さな旅館」と「白いぼうし」の二つの物語文を教材として用いる。

これら二つの物語は、登場人物である「女の子」が実は人間ではないと思わせる叙述があることが共通点として挙げられる。「ゆうすげ村の小さな旅館」では、登場人物である「女の子」が実は「ウサギ」が変身した姿であることが明示されている。「白いぼうし」では、「女の子」が「ちょう」ではないかと類推させる叙述がある。この「女の子」の正体を類推させる書き方を「物語のしかけ」とし、「読みの観点」として学ばせる。そして、この観点を二つの教材を読み比べることで、「文章中の語や表現に着目しながら読む力」を身に付けることができるのである。

また、二つの物語の「物語のしかけ」や「心に残ったこと」などを「本のショーウインドウ」に書き表すことを「単元を貫く言語活動」として設定する。「『本のショーウインドウ』を作って保護者に紹介する」という目的意識をもった子どもたちは主体的に学習に取り組むことができるのである。

## 1 単元名 物語をくらべて紹介しよう！

教材名 「ゆうすげ村の小さな旅館」（東京書籍3年上）「白いぼうし」（光村図書4年上）

## 2 単元の指導目標

- 物語を読むことに興味をもち、二つの物語を比べながら読もうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- ◎それぞれの場面で起きた出来事を読み取り、場面と場面とを関連付けて読んでいる。【読むこと】
- 物語のしかけを見付けるために、文章中の語や表現に着目して読んでいる。【読むこと】
- 自分が感じたことや考えたことについて、理由を挙げて書いている。【書くこと】
- 表現したり理解したりするために、必要な語句を増やしている。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

## 3 児童の実態

児童は4月教材「すいせんのラッパ」で、場面の様子が伝わるように音読をしたり、叙述をもとに、「すいせん」や「かえるたち」の様子や気持ちを想像しながら読んだりした。また、物語を読んで感じたことを交流した。しかし、登場人物である「かえるたち」が、春のおとずれを喜んでいることは分かるが、それがどの叙述を根拠として考えたのかということを説明する力が不十分であった。そのため、本単元では、「文章中の語や表現に着目しながら読む力」を育成したいと考えた。

## 4 単元を貫く言語活動

教材文「ゆうすげ村の小さな旅館」と「白いぼうし」とを比較し、それぞれの物語を紹介する「本のショーウインドウ」を作成すること

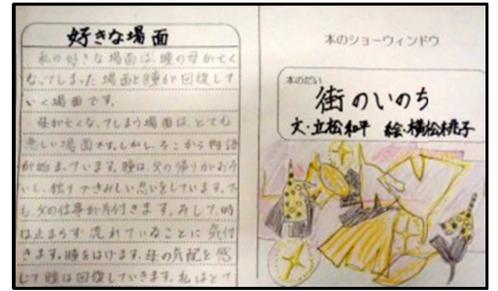
## 5 学習過程を活性化するための工夫

- (1) 単元の導入で「ゆうすげ村の小さな旅館」と「白いぼうし」を紹介し、不思議な物語（ファンタジー）のおもしろさを実感させる。また、「本のショーウインドウ」を提示し、「二つの物語を比べた『本のショーウインドウ』を作って、保護者に紹介しよう」という目的をもたせる。
- (2) 「ゆうすげ村の小さな旅館」と「白いぼうし」について、「基本的な読み」と「比べ読み」を行わせる。
- (3) 「ゆうすげ村の小さな旅館」と「白いぼうし」を読み、子どもが決めた項目に沿って「本のショーウインドウ」を書いていく。
- (4) 一人一人が作った「本のショーウインドウ」を展示し、保護者に紹介する。

6 単元の学習過程

つかむ(第1時)①

- ・「ゆうすげ村の小さな旅館」と「白いぼうし」を紹介し、物語（ファンタジー）のおもしろさを実感する。
- ・「本のショーウィンドウ」を提示し、「二つの物語を比べた『本のショーウィンドウ』」を作って、保護者に紹介しよう」という目的をもつ。
- ・「本のショーウィンドウ」に書く項目を提示し、見通しをもたせる。



「本のショーウィンドウ」

「ゆうすげ村の小さな旅館」と「白いぼうし」を比べ読みし、「物語のしかけ」や「物語の設定」、「作品を比べて」などの項目を選択し、「本のショーウィンドウ」に書くという見通しをもつ。

ふかめる(第2時～9時)

ゆうすげ村の小さな旅館

白いぼうし

基本的な読み ②～⑦

- ② 「ゆうすげ村の小さな旅館」を読んで、「おもしろかったところ」や「不思議に思ったこと」などの感想を交流する。
- ④ 「ゆうすげ村の小さな旅館」の設定（時・場・登場人物）を確認する。
- ⑥ 登場人物である「美月」は「ウサギ」であることが類推される叙述＝「物語のしかけ」を探す。

- ③ 「白いぼうし」を読んで、「おもしろかったところ」や「不思議に思ったこと」などの感想を書く。
- ⑤ 「白いぼうし」の設定（時・場・登場人物）を確認する。
- ⑦ 「おかつぱのかわいい女の子」が「ちょう」ではないかと類推される叙述＝「物語のしかけ」を探す。

比べ読み ⑧, ⑨

【基本的な読み】の観点

- ・ 物語の設定
- ・ 物語のしかけ

いかす(第10時～12時)

本のショーウィンドウ作り ⑩～⑫

- ・ 「本のショーウィンドウ」に載せる項目（「物語の設定」「物語のしかけ」「心に残ったこと」「作品を比べて」「お気に入りの言葉」）から三つを選択し、「本のショーウィンドウ」に書き加えていく。
- ・ 教室に展示し、保護者に紹介する。



## 7 指導の実際

### つかむ過程

単元のはじめに、これから教材とする「ゆうすげ村の小さな旅館」を読んだ。子どもたちは、「おもしろい。」「不思議だな。」などと様々な感想を抱いた。

次にもう一つの教材「白いぼうし」を読んだ。すると、「何か不思議な感じがする。」「『ゆうすげ村の小さな旅館』と似ている。」という声が聞かれた。

そこで、「二つの作品を読み比べ、それぞれのおもしろさを紹介しよう」と投げかけた。さらに、その方法として「本のショーウィンドウ」を紹介した。子どもたちは、「おもしろそう。」「作ってみたいな。」という意欲をもった。さらに、完成した作品は保護者の方に見てもらおうという目的意識をもたせることで、子どもたちは一層意欲的な姿を見せた。

### ふかめる過程

ふかめる過程では、「基本的な読み」と「比べ読み」の二つの学習を行った。

#### 【基本的な読み】

- 「物語の設定」（「時」・「場」・「登場人物」）をとらえる。
- 「物語のしかけ」をとらえる。

「ゆうすげ村の小さな旅館」と「白いぼうし」について上記の「基本的な読み」を行った。

「ゆうすげ村の小さな旅館」において、「登場人物」の定義や「時」を表す言葉探しなどを丁寧に行うことで「読みの観点」を獲得させた。その観点をうい、「白いぼうし」では、自分の力で物語の設定を読ませてもらった。

また、「ゆうすげ村の小さな旅館」では、登場人物である女の子「美月」が、実は「ウサギ」であることが物語の結末に書かれている。しかし、この結末までに「美月」＝「ウサギ」であることを類推させる叙述が複数見られる。例えば、「美月」が登場する場面では、「色白のぽっちゃりとしたむすめ」と書かれている。この「色白のぽっちゃりとした」という叙述は「ウサギ」を連想させる。このような書き方を「物語のしかけ」と呼び、物語のおもしろさを生む技であることを確認した。子どもたちは「もっとしかけがあるよ。」

と他のしかけを探し始めた。子どもたちが探した「物語のしかけ」は以下の通りである。

#### 「ゆうすげ村の小さな旅館」の物語のしかけ

（「美月」＝「ウサギ」を類推させる叙述）

- ・「色白のぽっちゃりとした」＝「ウサギ」の毛色
- ・「宇佐見」という名字＝「ウサギ」を連想
- ・「ウサギダイコン」＝「ウサギ」という名
- ・「美月」の名＝「美しい月」は「ウサギ」を連想
- ・「くるくるとよくはたらく」＝「すばやい」動き
- ・挿絵の「美月」＝「美月」のおさががウサギの耳
- ・「耳がよくなるまほう」＝「ウサギ」は耳がよい
- ・「山のみんな」＝「山」にいるのは動物

#### 「白いぼうし」の物語のしかけ

（「おかつぱのかわいい女の子」＝「白いちょう」を類推させる叙述）

- ・「白いぼうし」＝「白い」が「ちょう」を連想
- ・「四角い建物」＝「ビル」という言葉を知らない
- ・「菜の花横町」＝タクシー運転手の松井さんも知らない町の名→人間ではない？
- ・「早く行ってちょうだい。」＝男の子から逃げたい
- ・「よかったね。」＝女の子が帰ってきて「よかった」
- ・「よかったよ。」＝無事に帰られて「よかった」

「物語のしかけ」探しを行った子どもたちは、次に二つの作品の「比べ読み」を行った。



図1 二つの作品を読み比べる

A子は、二つの作品を読み、「似ているところ」や「違うところ」を書き出していった。その後、全体で話し合いの場を設け、それぞれの読みを交流した。A子はこの話し合いを受けて、次のようにノートにまとめた。

**「ゆうすげ村の小さな旅館」と「白いぼうし」**

「似ているところ」

- ・どちらも物語文
- ・どちらも女の子に変身する
- ・どちらも白い生き物が出てくる
- ・どちらもだれかを助ける場面がある
- ・どちらもおんがえしをしている

「違うところ」

- ・「ウサギダイコン」と「夏みかん」
- ・「つぼみさん」は、「美月」＝「ウサギ」と分かったけど、「松井さん」は、女の子の正体が分かっていない。書かれていない。
- ・「時」「場」「登場人物」などの設定が違う。

二つの物語から共通点と相違点を見出した A 子は、「物語をよく読むと、女の子の正体がたくさんの場所にかくされていることが分かった。この二つの物語のおもしろさをたくさんの人に教えたいな。」という思いをもった。

**いかす過程**

二つの作品の「比べ読み」を行った後、それぞれの物語について「本のショーウインドウ」に書く項目を三つ選択して書いていった。



図2 「本のショーウインドウ」を書く

A 子は、「心に残ったこと」「美月＝ウサギのしかけ」「白いぼうしと比べて」という項目に決め、「本のショーウインドウ」を書き進めた。

書き終えた「本のショーウインドウ」は、教室に展示し、保護者に見てもらった。

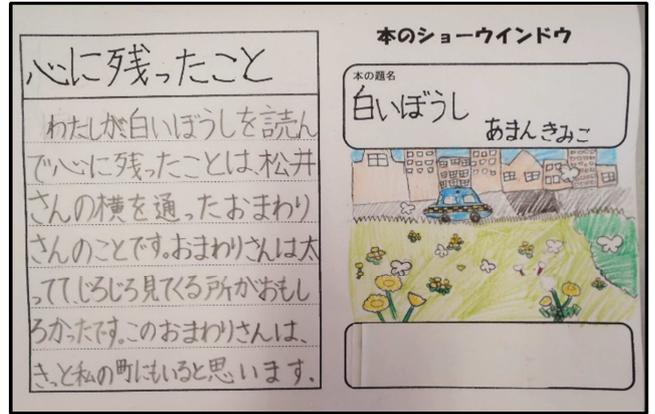


図3 「本のショーウインドウ」表側



図4 「本のショーウインドウ」裏側

**8 成果と課題**

**(1) 成果**

「ゆうすげ村の小さな旅館」で獲得した「読みの観点」を使って、「白いぼうし」を読むことができた。このように、一つの教材で習得した力を、他の教材で活用することで、より一層「読む力」の定着が図られる。

また、『本のショーウインドウ』を作り、保護者に見てもらおうという目的をもたせたことで、子どもたちは、主体的に学習に取り組む姿が見られた。「読むこと」の学習は、目的意識をどのようにもたせるかが課題である。「単元を貫く言語活動」を位置付けた授業づくりを行うことにより、この課題が克服できた。

**(2) 課題と改善策**

二つの作品を読み比べることで、当初の予定よりも2時間時数が増えた。「何を教えるのか」を明確にし、時数が超過しないように授業を構想する必要がある。そのためには指導計画を見直し、系統立てて指導を行うことが大切である。

**9 参考文献**

・『小学校国語科 授業&評価パーフェクトガイド』水戸部修治著 (明治図書 2013)